

SONAX来日！合同テストを行いました

8月3～5日の3日間、SONAX開発チームが来日し、合同試験を行いました。SONAXとKeePerは普段のメールやWebでのコミュニケーションとは別に、必ず3か月に1回、直接会ってミーティングや合同テストを行っています。

今回は、いつものように新製品候補の新しい試験サンプル品の合同テストを行うと同時に、皆さまに届けるKeePer製品をより品質向上・安定化につなげるための製品検査・テスト方法

の改定・統一化を行いました。

また、来社されたSONAX取締役マイリコフさんたちから「SONAXでは、KeePerが直接お客様から得ているニーズを、製品化するまでの各プロセスをより短期間で実現できる体制を構築した」と各工程表を用いて説明を受けました。

現場そしてお客様が求めているものを、速やかにかつ確実な品質で提供できるよう、これからもSONAXと強い協力体制で実現していきます。



(左から)SONAX開発チームのハブラさん、ハイネマンさん、マリーンさん、取締役のマイリコフさん、営業のステファンさん。



SUPER GT第4戦、富士スピードウェイに訪れたSONAXのスタッフ一同。大湯選手、小林選手とともに「はい、キーパー！」。

技術情報

① タイヤのホワイトレター(文字部分)が茶色くなる現象に、タイヤキーパーは関係ありません。

タイヤのホワイトレター(文字部分)が茶色くなる現象について、タイヤメーカー4社に原因と除去方法を聞きました。

B社	Y社	G社	T社
【原因】 タイヤのゴムの中には、ひび割れを抑制する薬品が含まれていて、この薬品がゴムの内部から染み出てきます。この薬品が茶色のため、タイヤの側面が褐色になる場合があります。	【原因】 タイヤには老化防止剤が入っており、日光などにより浮き出てきて茶色に変色してしまいます。これはどうしても防ぐことはできません。	【原因】 走行中の泥やブレーキダスト、タイヤの保護成分が染み出てくるのが汚れの原因です。	【原因】 タイヤ保護剤が染み出してきてしまうため、どうしても発生してしまう現象です。水や紫外線が染みだす主な原因です。
【除去方法】 タイヤワックス(水性)で取り除くことができます。しかし今回、ホワイトレターに出てくるという現象はあまり聞くことがなく、実際の原因を推定するのが難しい状況です。	【除去方法】 中性洗剤でやさしく洗ってください。メラミンスポンジで擦ることも効果的ですがやさしく擦ってください。強くこすると表面が荒れて劣化、ひび割れが早くなる可能性があります。	【除去方法】 水かぬるま湯をかけ、洗剤を使用し、ホワイトレター部分をスポンジで軽く擦ってください。それでも落ちない場合は、ホワイトレター部を細かい耐水ペーパーなどで浸透部分を削り取ってください。汚れの浸透具合によっては削り取れない場合もあります。	【除去方法】 水洗いや中性洗剤では取れないと思われます。シンナーやホワイトガソリンを使うとゴムの痛みは少なくなります。ホワイトレターの部分のみ触ってください。またメラミンスポンジでやさしくこすってもキレイになります。アルカリ性の洗剤でも落とせるがゴムが痛んでしまいます。

4社の返答からKeePerの考え方

タイヤのゴムの中には、ひび割れを抑制する薬品(老化防止剤)が含まれていて、日光などにより、この薬品がゴムの内部から染み出します。この薬品が茶色のため、タイヤの側面、特にホワイトレター部分が目立って褐色になると考えられます。よってタイヤキーパーによる影響はありません。

除去方法としては、中性洗剤を使って、キーパークロスで拭き取ってください。



② KeePerコーティングは基本的に「研磨」を必要としません。

KeePerコーティングは研磨に拠ることなく、低分子ガラス被膜で下地処理を行う最新の科学

コーティングの研磨とは、ポリッシャーとコンパウンド(研磨剤)を使って、塗装表面をミクロン単位で丁寧に磨いて、塗装表面の凸凹の凸を削り取り、塗装表面を平滑にツヤを出し、コーティング剤の定着を良くする作業です。

KeePerコーティングの場合は、塗装面の汚れを綿密に除去した上、研磨の代わりに独自の低分子ガラス被膜で塗装の凸凹の凹を埋め、1層目被膜として塗装表面を平滑にし、塗装のツヤを出します。塗装の凸凹の凹に入り込んだ低分子ガラス樹脂がアンカー効果を出して、コーティング剤の定着を良くします。

その上に2層目被膜に特長を持ったレジン形成して、水シミ付着防止や自浄効果などを生み出し、KeePer独自の付加価値を出しています。

KeePerコーティングは、下地処理をしないのではなく、下地処理、塗装面平滑を昔ながらの研磨作業に拠ることなく、低分子ガラス(無機物)被膜で下地処理を合理的に行う最新の科学なのです。

ポリッシャーと研磨剤を使って研磨作業は、安全に作業するには技術の難度が高いため高い価値を感じ、KeePerは研磨をしないから低級なコーティングとおっしゃる方もいます。

研磨は着実に塗装全体を薄くしていく作業 研磨しない方がが良いのがKeePerの思想

研磨作業は、根本的に塗装の凸凹の凸部分を削り取って

しまうので、恒久的かつ高級な作業に思われがちですが、例えて言えば美容整形手術のように、一歩間違えば大切な肌を傷つけてしまうこともあります。第一、何度の繰り返しでできる作業ではありません。着実に塗装全体を薄くしていく作業に他ならないからです。

研磨が本当に必要なのは、比較的古い車です。手入れが良くなって、塗装の表面が浮いたように悪くなっているなら、その悪い部分だけ削って取っておいた方が良いですが、減多にありません。

だから私たちKeePerは、研磨はしなくてもいいのではなく、むしろ研磨はしない方が良いとしているコーティングです。KeePerは研磨をせずに済ませている手抜きコーティングではなく、研磨はしない方が良いので、あえてしないコーティングなのです。

研磨なし、12年前のビートルカブリオレがピカピカになった理由

12年前にビートルカブリオレを購入し、ピュアキーパーを複数回かけ、5年前にEXキーパーをかけて以来メンテナンスをしていまして。そのビートルカブリオレにEXキーパー・Bメンテをやってどうなるかを試してみたのですが、12年前の車とは絶対思えないくらいピカピカになりました。これが最初のコーティングの時、あるいは2回目のコーティングの時に研磨していたら、12年後、絶対にピカピカにはならず、色褪せしているはずでした。

KeePerは研磨しないでいいコーティングではなく、研磨しないからこそすごく良いコーティングなのです。研磨

はしなければいけない方が絶対に良いのです。

もちろんKeePerも、研磨をしなければならないほど傷んだ塗装の場合は施しますが、本当に傷んで悪い状態になっている塗装以外、研磨をしません。ましてや新車を研磨するなんて、もったいなくて絶対にしません。赤ちゃんの手穴のないツルツルスベスベな肌に美容整形手術をするようなものです。



12年前の年式のビートルカブリオレ。当時、ピュアキーパーのパンフレットに載っていました。